

2011～12 年度 インターネット基盤整備基金資産運用計画（案）

標記の件、資産運用規程に基づき、運用資産（運用期間 1 年以上）である、インターネット基盤整備基金資産の運用について、下記の通り進めたく。

記

1. 2011 年 3 月 31 日時点での基金資産の状況 * 2010 年度決算値(時価評価)

基金資産総額 1,214,488,386 円

・ 2011 年度運用収入(予算)	19,980,000 円	(利回り予測 1.65%)
・ 2010 年度運用収入	21,359,115 円	(利回り実績 1.76%)
・ 2009 年度運用収入	16,757,043 円	(利回り実績 1.36%)
・ 2008 年度運用収入	29,929,625 円	(利回り実績 2.46%)
・ 2007 年度運用収入	45,912,203 円	(利回り実績 4.10%)
・ 2006 年度運用収入	38,075,111 円	(利回り実績 3.50%)
・ 2005 年度運用収入	28,026,913 円	(利回り実績 2.85%)
・ 2004 年度運用収入	9,090,343 円	(利回り実績 0.95% 2004 年下期運用開始)

2. 運用計画策定の考え方

(1) 基本方針

- 今後新たにインターネット基盤整備基金資産に繰入れられる資金、及び、既に償還を迎えた、また今後償還を迎えるインターネット基盤整備基金資産につき、債券での運用を行い 安定的な財政基盤の一助とすると共に効率的な資産管理を行う
- 社団法人の資産運用であることから、基本的にリスクを抑えた手堅い運用を志向する。
- その上で、資産運用規程の範囲内で、ある程度の運用収益を確保できるよう、柔軟かつ積極的な運用をバランスよく行う
- 仕組債のコール時の対応
仕組債がコールされた場合は、資産運用委員会にて、速やかに再投資の検討を行う
- 益出し後の資産は、当面銀行預金等の安全かつ流動的な方法で運用しつつ、資産運用委員会にて適切な投資の機会をうかがう
- 適切な再投資の機会がなければ、次年度運用計画修正時まで銀行預金等で運用する

(2) 運用収益目標について

- この運用より得られる収益は 30 年日本国債の利回り(1.9%程度 *前回 2.1%)を当面のメルクマールとする
- 外国債券を含め複数の債券でのポートフォリオ運用を図る

(3) 運用の基本的な考え方

- 投資対象商品の分散、投資期間の分散、通貨の分散を図る
- その上で、投資毎の取得価額の確保を図る
- (仕組債を除き)最長投資期間を 10 年としたラダー運用を基本とする
- 投資対象通貨は MMF での設定が一般的な通貨とする
- 時価が取得価額の+10%以上となった時は益出しを検討しなければならない
- 時価が取得価額の - 20%以上となった時は損切りを検討しなければならない

3. 2011～2012年度運用計画(案)

(1) ポートフォリオ策定の考え方

- 取得価額ベースで元本確保型債券を全体の3/4、他の債券を1/4を目安とするポートフォリオを基本とし、柔軟な運用を図る
- 元本確保型でない商品を全て損切りした場合、その穴埋めに2年間の運用収益を全てあてるリスクを負う
- 元本確保型債券は、日本国債、その他の国内債券と、仕組債で構成する
- 仕組債を除いた債券で、最長10年のラダー運用を志向するポートフォリオとする

< 2012年2月1日時点の2011～12年度運用対象(原資)資産 >

運用対象内訳	運用対象金額内訳	備考
2009～10年度運用原資未執行分	119,099,113	国内債券 2年で計画も購入出来ず
2009～10年度運用原資執行残額	218,964	2010年3月アンダーパーにて購入のため
2011年8月償還分(米州開発銀行債(NZD))	70,286,700	償還損計上 1,872,092円 *円高による
計	189,604,777	

< 上記運用対象資産の投資(案) >

運用/債券区分	運用期間	購入予算額	備考
国内債券	1年	100,000,000	安全、原本確保可能な債券のみ
外国債券	年	0	運用環境整わず見送る
銀行預金	-	89,604,777	年度当初の繰替運用に備え流動資産保持
計		189,604,777	

(2) 運用に関する事務手続等

- 投資開始時期は3月9日(金)第89回理事会にて承認後速やかに開始する
- 運用する債券は既に運用債券を購入している国内の証券会社3社の提案より選択し、購入する

4.運用体制

- 運用に関わる事務は総務部で主管する
- 各売買の判断は、資産運用委員会が行う

以上